

発刊にあたって

秋 岡 陽

フェリス女学院は2020年に創立150周年を迎えます。日本の近代的教育機関としては、最初にキリスト教女子教育を始めた学校です。フェリス女学院は1965年に4年制の新制大学を開設しましたが、その際も、この「キリスト教の信仰に基づく女子教育」が「建学の精神」として継承されました。そして、新しくできたフェリス女学院大学の学則第1条には「キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする」大学であることが明記されました。

こうして建てられたフェリス女学院大学は、2020年の学院創立150周年に向けて、グランドデザイン「Ferris Univ. 2020」を策定しました。このグランドデザインをもとに、今後の中長期的な大学の基本方針がたてられることとなります。このグランドデザインで強調されたのも、創立者キダーから託された「キリスト教の信仰に基づく女子教育」の継承でした。そして、この「建学の精神」を、さらに明確化・具体化していくことが確認されています。しかし、それはただの懐古趣味ではありません。先行きが見えない激動の時代に突入しようとしている今だからこそ、本学が寄って立つ「岩の上」に、ゆるぐことのない家を建てる必要があるのです。

本研究所も、この大学グランドデザインの一環として発足しました。従来からあった「キリスト教音楽研究所」を発展改組する形でのスタートです。「キリスト教研究所」の目的とするところは、本学の教育の基本方針であるキリスト教や、キリスト教文化・キリスト教学校教育に関する学術的研究を推進し、本学の教育の改善に寄与すること、またその成果を広く学内外に発信し、社会に貢献することです。

この、学内外への成果の発信のための具体的な事業としては、講演会の企画・運営や、研究紀要等出版物の発行を計画してまいります。その最初の果実として、ここに『フェリス女学院大学キリスト教研究所紀要』を発刊することになりました。踏み出したばかりの小さな一歩ですが、今後とも学内外でのさらなる研究交流を通じて、キリスト教研究の活性化とキリスト教学校教育の継承に貢献できることを願っています。ご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

所長・学長